

観光地美化キャンペーン



7月19日(木), 斜里町と日観協主催の観光地美化キャンペーンが行われました。当センターからは2名が参加し, 知床五湖の駐車場と知床峠で観光客へゴミ袋を配りました。この催しは数年前から毎年この時

期に行われています。当日は天気も良く, 知床観光の最盛期ということもあって大勢の観光客にゴミの持ち帰りをよびかけることが出来ました。

知床の木

(マツ科)

ハイマツ

幹は斜めに地上をはい0.5~3mくらいになる。樹皮は暗褐色で, 鱗片状になる。葉は線形で, 5本一束になつて枝に密につく。

雌花は枝先につき, その下側に雄花をつける。

球果は開花の翌年の初秋に熟し, 種子は鱗片の裏側に2個つく。鳥や動物の餌となる, 高山帯によく生育し, 大きな群落をつくる, 知床の風当たりの強い所では海岸近くまで生育している。



知床の森から

平成13年9月発行 第74号

北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

シンボルマーク「ゲラちゃん」



知床は今

知床はこれから紅葉時期となり, 樹木達も冬に向けて身支度をはじめます。紅葉は葉の老化現象といわれています。日照時間が短くなり, 気温が低くなると, 木の葉のクロロフィル(葉緑体)が壊れ, 細胞内の核酸やタンパク質が分解され, 葉としての働きが弱くなります。すると葉の付け根に離層と呼ばれる膜のようなものができ葉と枝のつながりが弱くなり落葉します。

一口に紅葉といっても「黄葉」と「紅葉」があり, それぞれ葉の色が変わるまでの葉の中の化学変化が違います。

黄葉の場合は, クロロフィルが壊れ緑葉体に



知床硫黄山の黄葉

元々含まれているカロチノイドという黄色の色素が残るために黄色に変色します。

紅葉の場合は, 葉の老化現象に伴い新たにアントシアンという紅色の色素が合成されるため紅色になります。

なんだか難しい話になりましたがとにかく秋の紅葉を楽しみましょう。当センターのホームページ(写真展示室)でもご覧になれます。

写真は知床硫黄山の黄葉です, この年一番の黄葉でした。太陽の光に輝くように黄色い木の葉が揺らいているのを見て思わずシャッターを切りました。

知床の国有林に観測カメラを設置

- - 最新の情報を広く一般に提供 - -

この度、知床の国有林に「森林環境情報システム」が設置されました。

これにより、豊かな自然に恵まれた知床の森林に関する最新の情報を、インターネットを活用してより広く提供できるようになりました。

具体的には、3カ所に設置された観測カメラを使って撮影した静止画像を当センターに設けた基地局で受け取ります。基地局にはサーバー1台とクライアント2台、計3台のパソコンが設置されました。ここでは、観測カメラから送られてきた映像に説明文を付け加え当センターのホームページに掲載します。写真は定期的に更新し、新鮮な情報を提供していく予定です。

右の写真は、観測カメラで撮影したウトロ～知床連山の風景と当センターに設置した基地局の様子です。



自然公園クリーン作戦

自然公園クリーン作戦が、8月5日に知床峠でおこなわれ、斜里町、羅臼町から約40名が参加し、当センターからも2名が参加してきました。

当日はあいにくガスがかかっていたため、例年行っている横断道路沿いのゴミ拾いは行わず、知床峠の駐車場周辺でのゴミ拾いとなりました。

あまり目立つような大きなゴミはなかったのですが、投げ捨てられたたばこの吸い殻が多いことに驚くとともに、ゴミを拾っている横でたばこを投げ捨てる人がいて、ちょっと閉口してしまいました。



貴重な自然を守るために、マナーを守ってください。みなさんのご協力をお願いします。

第58回森林レクリエーション・in知床

森林レクリエーション・in知床「神秘的ラウス湖と五つの沼巡り」を、9月6日(木)に行いました。今回のイベント箇所は、知床峠から羅臼側に3km下った根釧東部森林管理署が管理する国有林内で、国道沿いの入口から羅臼湖に至る遊歩道沿いに点在する大小5つの沼を見ながら、歩道終点にある羅臼湖に至るコースです。羅臼湖は標高740m、周囲3.7kmで知西別岳、天頂山の裾に広がる水深平均1.5mの浅い湖で、閑静で汚れない隠れた名所です。

今回は、秘境羅臼湖ということから100名を超える応募があり、抽選の結果29歳から73歳までの23名の参加となりました。貸切バスに乗った一行は、知床峠に近づくと雲が厚く雨に合う心配があり、登山道入口で合羽を準備し出発しました。

遊歩道にはいるとすぐダケカンバやハイマツなどの高山帯の樹木が歩道を覆っています。ゴゼンタチバナ、コケモモ、イワツツジの赤い実など、遊歩道沿いの植物を観察しながら進み、辺りがハイマツに覆われた三の沼では、水を湛えた湖面に、チシマミクリの長い葉が水面に漂い、湿原にはモウセンゴケやスゲ類などの植物があり、



木道で小休止です。晴天であれば羅臼岳が水面に映り、景色の良い所とインストラクターから聞き、残念がっていました。

それから次々に現れる大小の沼を巡り、植物の垂直分布、遷移、木の実と動物の関わりなどの説明を聞きながら最終目的地の羅臼湖に着きました。展望台に着いた時は、霧の中に羅臼湖の水面が見えましたが、にわかに霧が濃くなって隠れてしまいました。雨粒も混じってきたので急いで記念撮影を済ませ、予定していた昼食場所を四の沼に変更し笹が茂る道を引き返しました。

昨年に引き続き今年も天気に恵まれず、これで4年連続で羅臼湖の姿を見ることができませんでした。来年こそはみたいと願いつつ知床の山を後にしました。



霧の中に羅臼湖？記念写真